

Vol  
196

## まとまったお金をどう活かす？ 改めて考えたい「一括投資」と「積立投資」

もうすぐボーナスの季節。投資に活用しようかな？と考えている方もいるかもしれません。その際、一気に投資する「一括投資」か、コツコツ進める「積立投資」か悩む方も多いようです。今回はそれぞれの特徴や、それぞれにあった投資信託の考え方などを一緒に見ていきましょう。



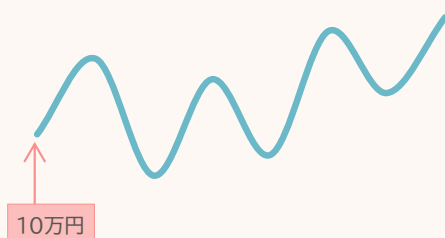
### 一括投資と積立投資の特徴

一括投資は、まとまった金額を一度に投資する方法です。早いタイミングから多くの資金を資産運用に充てることができ、長期で大きなリターンを得られる可能性があります。ただし、投資タイミングによっては投資直後に評価額が大きく下がる可能性もあります。

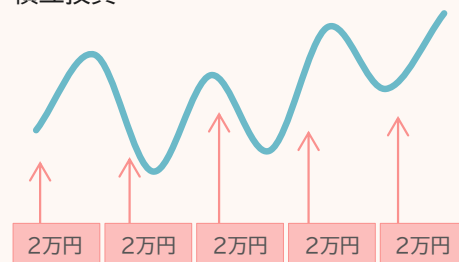
一方、積立投資は「毎月5万円ずつ」のように、定期的に一定額を投資する方法です。積立投資も市場の影響は受けますが、投資タイミングを分散することで、価格が高いときは口数を少なく、安いときには口数を多く買えるためリスク分散につながります。当初の資金が乏しくても続けていけば投資元本も次第に増えていくので、長期的な資産形成に向いているとされています。

#### ■一括投資と積立投資のイメージ

一括投資



積立投資



普段から積立投資をしているという方も多いと思いますが、それに加えて「ボーナスでは一括投資」、「ボーナス分を積立額に上乘せ」という視点で年間の投資計画を考えてみるのも良さそうですね。

## 一括投資と積立投資、投資信託はどう選ぶ？

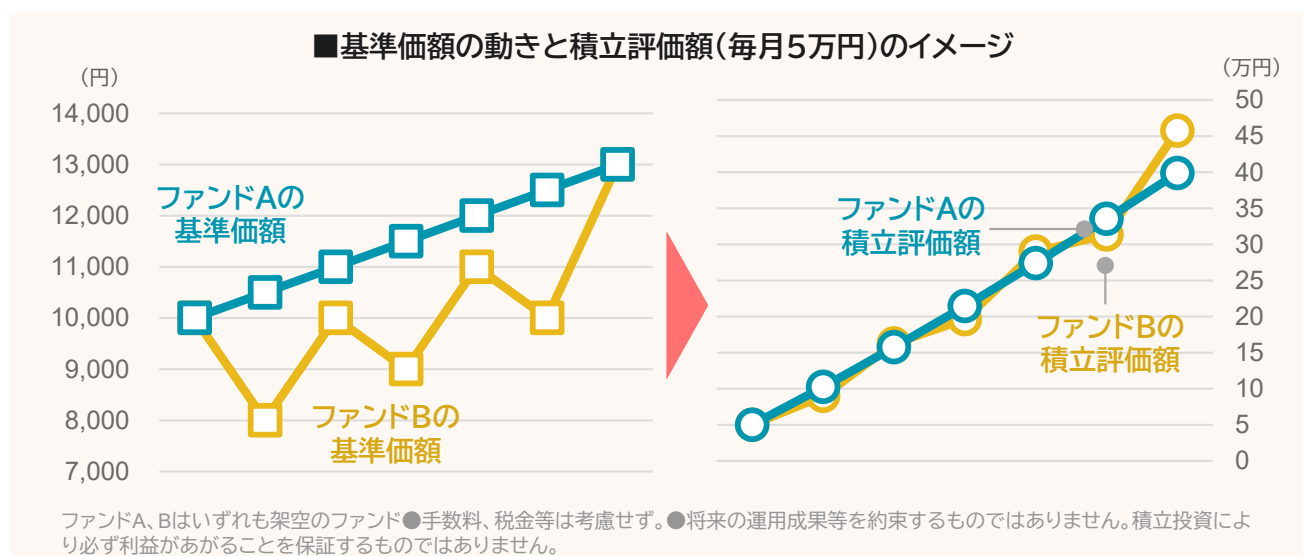
将来の値動きを正確に予測することはできないため、「この投資信託は一括向き」「これは積立向き」と断定することはできません。そのため、ここではあくまで考え方の一例として、それぞれにおける投資信託選びの視点を紹介します。

### 一括投資の視点から

投資後の大きな値下がりや不安な方には、バランスファンドなど値動きが比較的抑えられた投資信託が合うかもしれません。一方、相場観に自信があり、リターンの最大化を求める方には、株式ファンドなど値動きの大きい投資信託が選択肢となります。

### 積立投資の視点から

一括投資に付きまとう高値掴みのリスクを低減できることから、積立投資は、どのような投資信託にも合わせやすい買い方だと言えます。中でも「株式ファンドに興味はあるけど、一括投資は怖い」と感じる方には、積立投資が良さそうです。



左上図は、値動きが異なる一方で、スタートとゴールは同じという2つのファンドを表しています。ゴールが同じなので、一括投資の場合はどちらを選んでも結果は同じになります。しかし、積立投資の場合は話が変わってきます。一見すると良さそうなファンドAよりも、値動きの大きなファンドBは、安い時に口数を多く買える効果で最終的な積立評価額は大きくなるのです(右上図)。

投資対象となる資産によって、通常想定されるリスクの大きさ(値動きの幅)は変わってきます。その投資信託の投資先の資産をしっかりと確認したうえで、期待するリターンや受け入れられるリスクの大きさを踏まえて投資の仕方を考えてみるといいでしょう。

## 「積立投資」と“下落”の関係は？

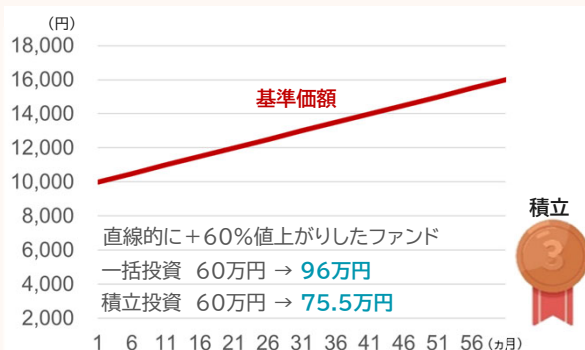
積立投資について、さらに詳しく見てみましょう。以下のグラフは、いくつかの異なる値動きをしたファンドを比較したものです。グラフ①、②、③は「+60%の成長」を遂げ、④は大きく値下がりしてから戻っただけ。ちなみに、一括投資の場合、投資結果は④は±0万円ですが、①、②、③は+36万円(元本60万円が60%上昇)になります。つまり、一括投資は、途中は無視して、スタートとゴールだけが結果を左右すると言えます。

それでは積立投資の場合は、結果はどうなったでしょう？

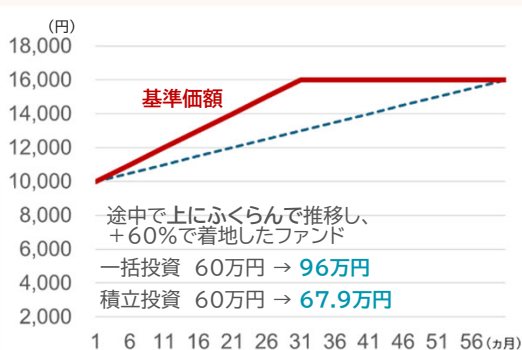
### ■基準価額の動きと一括投資／積立投資の評価額のイメージ

グラフ上のファンドはいずれも架空のファンド●一括投資／積立投資の結果は、架空の基準価額を使い、一括投資は投資開始時に60万円を、積立投資は毎月1万円投資した場合のもの●分析期間は60ヵ月(5年)、手数料、税金等は考慮せず

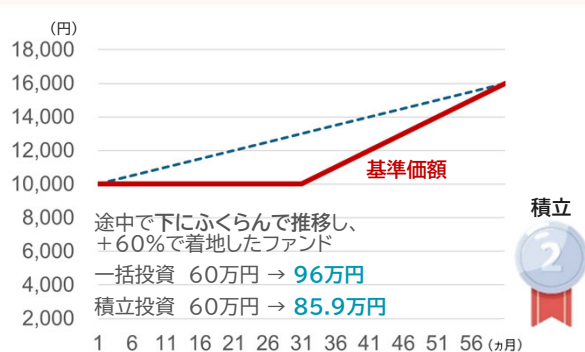
① (リスク・リターン効率の点から)  
一般的には優秀なファンド



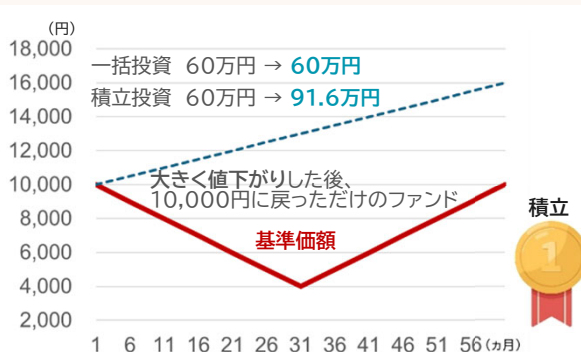
② (スタート時に調子が良いため)  
多くの人が選びがちだが、  
積立には良くない軌跡



③ (初期にはハラハラしたが)  
積立結果は優秀なファンド



④ (大きく下がって元に戻っただけの)  
残念な推移だが、積立には最も良い軌跡



●将来の運用成果等を約束するものではありません。一括投資／積立投資により必ず利益があがることを保証するものではありません。

1位になったのは、④の「大きく下がって元に戻っただけのファンド」でした。この4つの中で、「一番ハラハラする動きをしたファンド」だったものの、大きく値下がりのときに多くの口数を買えたことで、積立効果が大きく発揮されたのです。

実際には、このような動きをするファンドを最初から見抜くことはできません。しかし、積立投資のこうした特徴を理解して、下がったときにも積立をやめずに続けられるか、というのが積立投資との大事な付き合い方とも言えそうです。そのためには、投資対象の成長性を自分がしっかりと信じられることが大切です。もちろん、その視点での投資信託選びは、一括投資でも必要不可欠です。

## 終わりに

ここまで「一括と積立」での投資の考え方を見てきましたが、値動きはあくまでも結果論に過ぎません。ゴールに見据える数年後までの間の値動きを当てることは難しく、また予想すること自体もあまり意味はありません。

だからこそ投資スタイルを考える前に、まずはしっかりと「どれくらいのリターンを期待するのか」、「投資できる金額はどれくらいか」、「どれくらいの期間続けられるか」といったことを決めることが大切です。

その上で、選んだ投資信託に対して「自分は一括と積立のどちらなら続けやすいか？」という観点で投資スタイルを考えると、より納得感のある選択につながります。

せっかくのボーナス、ぜひ自分にあった形で有意義に活用していきましょう！



nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00

日興アセットマネジメント